国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ
T-over人権教育研究所・人権こども塾　ニュース

早いもので、中学校を卒業して15年が経ちました。
今回、改めて全体学習について振り返る機会を与えてくださったことに感謝しています。
中学生という何かと多感で不安定な時期に全体学習に出会い、私自身救われたというのが、率直な思いです。当時の先生方の熱のこもったご指導はもちろんですが、何より全体学習そのものの存在が私の心の奥底に眠っていた自分を揺り動かしてくれたように思います。

こんな前置きをして、彼は回答してくれました。
Q．中学生当時、「全体学習（みんなで語り合う人権学習）」をどう感じていたか？

小学生の頃の私は、前に出るのが苦手で、失敗を恐れ、消極的な性格でした。しかし、中学生になって全体学習と出会い、自分と同じ立場のクラスメイトが自分の思いを率直に語る姿を目の当たりにし、次第に自分の中で何かが変わっていきました。
初めは、「自分も何か言わなければ」という焦りや義務感のような感情から始まったのかもしれません。しかし、発言を終えた後には、不思議と充足感がありました。誰かの発言に自分の思いを返していく。自分の思いに誰かが反応してくれる。そこに、"人とつながっている喜び"を無意識に感じ取っていたように思います。この喜びを味わった私は、水を得た魚のように積極的に発言するようになりました。むしろ発言したいという思いを抱くようになってきている自分がいました。

以前の私は、中身のない発言をバッサリ切り捨てるようなところがありました。
中身にばかりこだわっていたのです。
でも、発言する中学生からすれば、清水の舞台から飛び降りるような心地です。
そんな気持ちを誠実に受けとめ、返すのは、同級生たちでした。
そして互いに思いを通わせ、共に成長してる姿を目の当たりにしたとき、
「嘘から出たまこと」でも、「瓢箪から駒」でもいいじゃないか
と思えるように変わっていきました。
つまり、本質に辿り着く道なんてどうでもいい。きっかけなんて何だっていい。
要は、本質に辿り着くことが大切なのだと。

小学生の頃には、なかなか前に出られなかった自分が、一番に意見を述べ、理想のクラスまで思い描くようになりました。
先生に勧められ、生徒会長を務めさせていただくまで積極的になりました。私をここまで育ててくださったのは、やはり当時の先生方と全体学習の存在が大きかったのではないかと感じています。

そんなに気を遣わなくてもいいのに、と思ってしまいます。
率直に、「仲間の存在」とだけ言えばいいのに、と可笑しくなってしまいます。
やはり彼を変えたのは、同級生の、仲間の声だと思います。
子どもたちは、私が思う以上に懐が深く、柔軟性に富んでいます。
今も、そんな中学生に学ばされ、励まされ、癒やされる毎日です。

T：たがいに－over：越える
T：ともに－over：越える
Talk over：じっくり話し合う
私たちのコンセプト、「みんなで語り合う人権学習」

みんなで語り合う人権学習は――すべてを変える

うずしおブランチ代表